

## オリパラ基本方針の概要

- ✓ オリパラ特措法に基づく閣議決定として、オリパラ大会関連施策の立案と実行にあたっての基本的な考え方、施策の方向を明らかにするもの。

### 1. はじめに

- ✓ 大会を契機として日本を再興し、成熟社会における先進的な取組を世界に示す。
- ✓ パラリンピックの開催は、障害者の自立や社会参加を促す大きな力。参加国・地域数についても、オリンピックとの差が縮まるよう、過去最多を目指す。
- ✓ 国際テロ・サイバー攻撃の脅威の高まり等、セキュリティをめぐる情勢は時代とともに変化しており、安全安心対策は必須。
- ✓ 世界の注目が日本に集まる機会を活かし、「復興五輪」として、復興の後押しとなる取組を進める。
- ✓ スポーツ、文化・クールジャパン等のイベントを通じたオールジャパンの魅力の発信、大会機運の醸成、外国人旅行者の地方への誘客拡大等を通じて、大会を国民総参加による日本全体の祭典とする。全国に大会の効果を行き渡らせ、地域活性化につなげる。
- ✓ 「強い経済」の実現、日本文化の魅力の発信、スポーツを通じた国際貢献、健康長寿・ユニバーサルデザインによる共生社会、生涯現役社会の構築に向け、大会の遺産（レガシー）を創り出す。
- ✓ 関連施策とその進捗状況は、「大会に向けた政府の取組」として公表する。

### 2. 基本的な考え方

#### ① 国民総参加による「夢と希望を分かち合う大会」

- ✓ 大会の効果が東日本大震災の被災地を含む日本全体に波及し、国民全体に参加意識が醸成されるよう努める。
- ✓ パラリンピックをオリンピックと一体的に運営することを通じて障害者の社会参加の拡大を図る。

#### ② 次世代に誇れる遺産（レガシー）の創出と世界への発信

- ✓ 高齢化社会、環境・エネルギー問題等多くの先進国に共通する課題を踏まえ、有形・無形の遺産（レガシー）を創出し、日本の力を世界に発信する。

### ③ 政府一体となった取組と関係機関との密接な連携の推進

- ✓ 組織委、東京都、会場が所在する地方公共団体と密接な連携を図り、オールジャパンでの取組を推進するため、必要な措置を講ずる。

### ④ 明確なガバナンスの確立と施策の効率的・効果的な実行

- ✓ オープンなプロセスにより意思決定を行うとともに、施策に要するコストをできる限り抑制する。

## 3. 大会の円滑な準備及び運営

- ✓ 全てのアスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるよう、セキュリティの万全と防災・減災等の安全安心の確保、アスリート、観客等の円滑な輸送、暑さ対策・環境問題への配慮、新国立競技場の整備を進める。
- ✓ 日本人アスリートの活躍を通じて国民を感動の渦に巻き込めるよう、メダル獲得に向けた競技力の強化に取り組む。
- ✓ アンチドーピング対策の万全の体制整備を行う。
- ✓ オリパラムーブメントの普及、ボランティア等の機運醸成を図る。
- ✓ ラグビーワールドカップ2019と共通する施策について連携して準備を進める。

## 4. 大会を通じた新しい日本の創造

- ✓ 世界の熱い注目が集まる大会の開催を通じて、東日本大震災の被災地が復興した姿、全国の地域の魅力、日本の強みである環境・エネルギー関連等の科学技術を世界にアピールし、地方創生・地域活性化、日本の技術力の発信、外国人旅行者の訪日促進を図る。
- ✓ 大会はスポーツ立国の実現の好機。スポーツ庁が中心となって、競技力強化、アンチドーピング対策等、スポーツ基本法が掲げる諸施策の推進等に取り組む。
- ✓ 大会はスポーツの祭典のみならず文化の祭典。伝統的な芸術から現代舞台芸術、最先端技術を用いた各種アート、デザイン、世界中が注目するコンテンツ、メディア芸術、ファッション、和食・日本酒等の食文化、祭り、伝統的工芸品、和装、花、木材、石材、畳等を世界に発信する。
- ✓ 大会を弾みとしてスポーツ・運動による健康増進、受動喫煙防止、公共施設等のユニバーサルデザイン化・心のバリアフリーによる共生社会の実現を通じて、障害者・高齢者の活躍の機会を増やす。